

発掘調査情報のインターネット発信の実践と評価

福永伸哉・清家章・横田深一郎(2003年3月)

1 インターネット発信の概要

わが国では小規模なものも含めると年間約一万件の文化財調査が行われており、膨大な数の遺跡、遺物が年々発見されている。これらのなかには新聞の第一面を飾るようなまさに学史的な発見もあるが、多くは「最古」「最大」などの形容とは無縁の地味な成果にすぎない。しかし、後者の場合でも、地元にとってみれば文字に残されなかった歴史を語るかけがえのない発見であり、それゆえに人々の関心と呼ぶのである。つまり、遺跡は世界、日本、地域、町や村といったさまざまなレベルでそれぞれに意義を持つ存在といえるのである。

わが国の文化財保護法は、文化財を「貴重な国民的財産」と規定し、国や地方のしかるべき機関がその保護活用にあたることを求めており、遺跡調査の場合には、従来、発掘作業が佳境に入った段階で市民向けの現地説明会を開催し、調査現場を一般に公開する取り組みが行われてきた。手作りの資料や説明板を作成し、調査担当者が直接現地を案内しながら見学者に説明する方式は、世界的に見てもユニークなものである。近年では、大きな発見があった発掘調査の現地説明会には全国各地から数千人の見学者が訪れることもめずらしくなくなった。

とはいえ、決められた日時に行われる公開説明会に参加できる人は、やはり限られた少数派であろう。また、関心があるからといって調査関係者以外が常時調査現場に入ることは、調査の遅滞や安全性を考えればまず不可能である。

このような限界を克服して文化財調査の情報を広く速く発信するために、有効な手段の一つとして期待されるのが、近年広帯域化が急速に進んだインターネットの活用である。筆者らの所属する大阪大学考古学研究室では古墳の学術発掘調査を毎年手がけているが、2000年度からは調査の現地から日々の新しい情報を Web 上で発信する試みを開始し、市民や研究者から一定の評価を得てきた。ただ、デジタル化の大きな利点であるマルチメディアの活用やコンテンツの効果的な収集・作成・発信という点では、情報工学・情報通信の専門家集団との連携がなくては、まもなく大きな壁にあたることは明らかであった。

そこで本研究においては、2002年の夏に大阪大学考古学研究室と川西市教育委員会が合同で実施した同市勝福寺古墳の発掘調査において、文化財情報を即日現地からインターネットで発信するとともに、(独)通信総合研究所の支援を得て、もっとも重要な公開イベントである現地説明会を同時中継する試みに取り組んだ。加えて、文字、図面、写真、映像、音声など、さまざまな形態の情報を統合したデジタルコンテンツを作成し、オンデマンド方式でインターネット発信する研究も実施した。いずれもわが国ではもちろんのこと、おそらく世界的に見ても例のない取り組みである。

以下では、さまざまな条件の制約がある発掘調査現場から直接情報を発信するシステムを構築するという試験的な研究について、方法面、応用面などの評価と課題を述べてみたい。

2 調査現地からのインターネット発信の準備と実践

(1) 調査計画と準備

大阪大学考古学研究室では、兵庫県勝福寺古墳発掘調査の内容にかんして日々の成果をインターネットで公開する試みを2001年度から始め、本年度も引き続いて行われることになった。発掘調査は2001年7月21日～8月12日及び2002年7月16日～8月16日に行われた。日々の調査経過を発掘現場から即日更新していくタイプのページ運営は、国内では初めての試みであった。それだけに運営に関する蓄積がなく、実際にこうした取り組みを行っていく中で課題や問題点に対してその都度対応していくという試行錯誤を余儀なくされた。

本年度は、さらに(独)通信総合研究所と共同で現地説明会のライブ中継を行うという新たな試みも行うこととなった。この章では、発掘調査に入るまでの調査団側の準備、および調査開始後の現地発掘作業と情報発信の実際の進め方などについて報告を行う。

2002年5月7日、大阪大学と川西市教育委員会は勝福寺住職へ調査の挨拶を行い、本年度の調査について説明を行い、快諾を得た。6月10日には兵庫県教育委員会と本年度の勝福寺古墳の調査について打ち合わせを行った。同日、勝福寺住職へインターネットによる調査成果の公開について説明を行うとともに、現地説明会におけるライブ中継用に光ファイバーケーブルを勝福寺の敷地沿いに設置することの許可を求め、快諾を得た。

調査中にホームページのコンテンツを作成することは労力を必要とされることが昨年度の経験からわかっていた。そこで本年度は、事前に作成できるコンテンツをあらかじめ作成することにより、ホームページを充実させることを計画し、6月から一部のコンテンツを作成し始めたのである。さらに、日々の調査成果を公開するためのホームページ用のプロバイダを選定し、6月11日にはドリーム・トレイン・インターネットと契約をした。

また、調査に携わりかつ日々のホームページを作成する調査員は、そのほとんどが文化系学生であったので、ホームページ作成に関する講習会を7月2日に行った。

現地説明会のライブ中継を行うためには、調査地である古墳近くにサーバーを設置する必要がある。そのため、サーバー設置場所と発掘調査機材置き場をかねて2×3間のプレハブを設置することになり、7月9日にプレハブ設置工事を行った。また、7月11日には光ファイバーケーブルをプレハブに引き込み、7月12日大阪大学において調査結団式を行い、すべての準備は完了したのである。

なお、調査成果を公開するために用いた機材は以下の通りである。

ノート型パソコン：INSPIRON 4100 DELL社製 1台

La Vie NX NEC社製 1台

デジタルカメラ：CAMEDIA C-40 ZOOM オリンパス社製

ホームページ作成ソフト：ホームページビルダーVer.6 IBM社製

プロバイダ：ドリーム・トレイン・インターネット Basicプラン

携帯電話：H'

(2) 調査開始後の作業

1日の作業内容 前節のような準備を経て、7月16日に調査を開始した。前節で示したとおり、本年度は現地説明会のライブ中継と日々の調査内容をホームページで公開するという2つの企画が進行していた。現地説明会ライブ中継では現地説明会をただ映像で流すだけではなく、現地説明会に至るまでの調査過程も映像で記録しておき、それもコンテンツの一部として利用することになっていた。つまり、1日のうちに、日々の調査成果の公開に関するコンテンツ収集と現地説明会ライブ中継に使用する調査過程の記録収集という2つの取材を行う必要があった。具体的には以下のような作業があった。

調査の進行状況の記録・・・調査作業中に、デジタルカメラで作業風景を記録。1日の調査が終了する際に行うミーティングで紹介される各調査区の作業内容の記録。

ホームページ作成・・・調査終了後、宿舎にて で取材した内容を日誌風にまとめ1日の調査内容をホームページにアップする。

ストリーミングの作成・・・1週間に一回のペースで、調査成果の内容を1分程度の映像で紹介するコンテンツを作成し、ホームページに掲載する。

画像の整理・・・ビデオ・デジタルカメラで撮影した映像を整理。

現地説明会ライブ中継用映像コンテンツ撮影・・・ ～ は日々のホームページ更新に関わる作業である。これとは別に現地説明会ライブ中継用のコンテンツとして、作業員がいない状態での調査区を毎日同じ角度から撮影した。撮影時間は各調査区約5分間ずつであった。

調査作業とあわせた1日の活動スケジュールは以下の通りである。

7:00 生活当番起床 朝食準備
7:30 起床
8:00 朝食
8:30 現場へ行く準備
8:40 宿舎発
9:00 作業開始

(10:15～10:45) 休息

12:00～13:00 休憩(昼食)

13:00 午後作業開始

(14:30～15:00) 休息(メディア係、取材)

16:30 ミーティング

17:00 作業終了

18:00 夕食

メディア係、ホームページ更新

20:00 ミーティング

メディア係、ホームページ更新・画像整理

23:00 消灯・就寝

調査団の体制 調査団では、各学生に調査担当地区を受け持たせ、できるだけ同じ調査区の作業に従事できるように人員を配置している。それとは別に、係を設けて様々な仕事を割り振っている。機材係・遺物係・図面係などである。インターネットに関してもメディア係を設け、その係員が現地説明会ライブ中継の準備と日々のホームページ更新を担った。調査面積と宿舍の都合で調査に参加する学生は1日約20人余りである。メディア係以外にも係があるので、メディア係だけに多くの人材を割くわけにはいかない。その結果、4～5名の学生がメディア係に所属することになった。

だが、学生は考古学の授業と研究の一環として調査に参加しているので、メディア係の係員は、インターネットの作業だけに従事していたわけではない。9時から5時までの作業時間は基本的に調査に従事し、合間を縫ってインターネットにかかる作業を携わることになっていた。しかし、上に示した～の作業は片手間にできる程度の量ではなかった。メディア係がすべての作業を担っていた当初は、2時半以降の調査作業にメディア係が参加できずに、インターネットの仕事に忙殺されるという状況であった。そこで、メディア係の負担が大きすぎるので、他の係に属する学生が1日交代でメディア係を補佐する体制をとった。具体的には、メディア係1名と他の係の学生1名がセットとなり、その日のメディア係の業務を行うことになったのである。この方式をとることで、メディア係の係員は2～3日に1度の割合で半日間メディア係の作業に従事することですむようになったのである。調査の中盤以降、こうした体制でインターネットの作業は進められた。

(3) 作業の問題点

上記の体制で作業が進められたインターネット中継であるが、きわめて好評であり、新聞紙上で取り上げられたことも手伝い、昨年に引き続き6000件近いアクセスがあった。しかし、作業上の問題は数多かった。

もっとも重要な点は、インターネット中継にかかる専従担当者がいないことである。先述の通り、インターネットにかかる作業にはメディア係が従事し、ほかの調査参加者がこれを補助した。しかし、メディア班の負担はそれでも大きかった。5時に調査が終了した後、発掘宿舍でホームページの更新を行ったが、この更新は消灯時間の11時を過ぎても終わらないことがしばしばあった。また、インターネットは不特定多数が閲覧するのであり、その内容は正確を

期さねばならないことは言うまでもない。ホームページの更新に際しては、責任者である調査担当者が最終的に内容を点検していた。消灯時間を過ぎてから更新の点検作業を行うことは、調査担当者の負担を増大させ、その業務をさらに過酷なものとした。

このように、調査担当者ならびに学生が、調査活動を行いながらインターネットにかかる業務を行うことは精神的・肉体的に負担が大きい。改善する方法として、インターネット専従作業員を動員することがあげられよう。インターネット作業にのみ従事する担当者を複数名準備することにより、調査活動とインターネット作業を人的に完全に分離し、調査活動に従事する調査担当者と学生の負担を軽減することが肝要と考える。

3 発掘調査速報のインターネット受信者アンケートの分析

2001年、2002年ともにWebページ上でアンケート調査を実施し、二ヶ年併せて約100件の回答を得ることができた(注1)。インターネットを活用した文化財の社会的利用の可能性を考えていく上で、貴重な意見を含んでいると考えられるため、本章ではアンケート結果の集計・分析を行うことにする。

(1) 発掘調査速報ページの構成

全体の構成 基本的なページ構成は、2001年度・2002年度ともほぼ同様である(図1・図2)。2002年度のページにおいて最も顕著な改良点は、どの日の調査成果コンテンツからでも任意の日の調査成果へ移動できるようにした点である。2001年度のページでは、その日以前の成果しか参照することができずに不便であったため、改良を加えた。

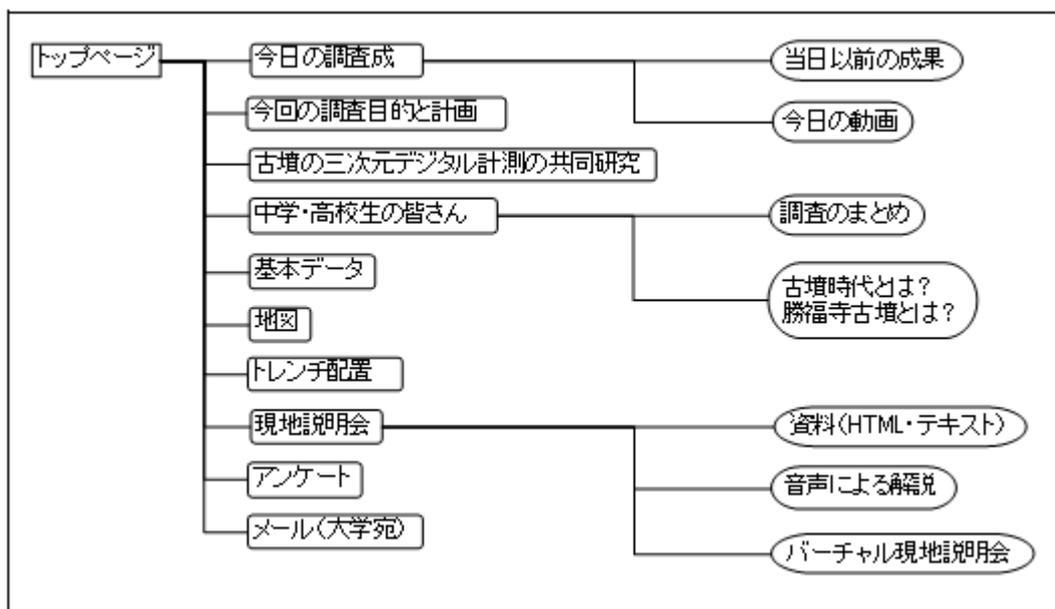


図1 2001年度大阪大学勝福寺古墳発掘調査のHP構成

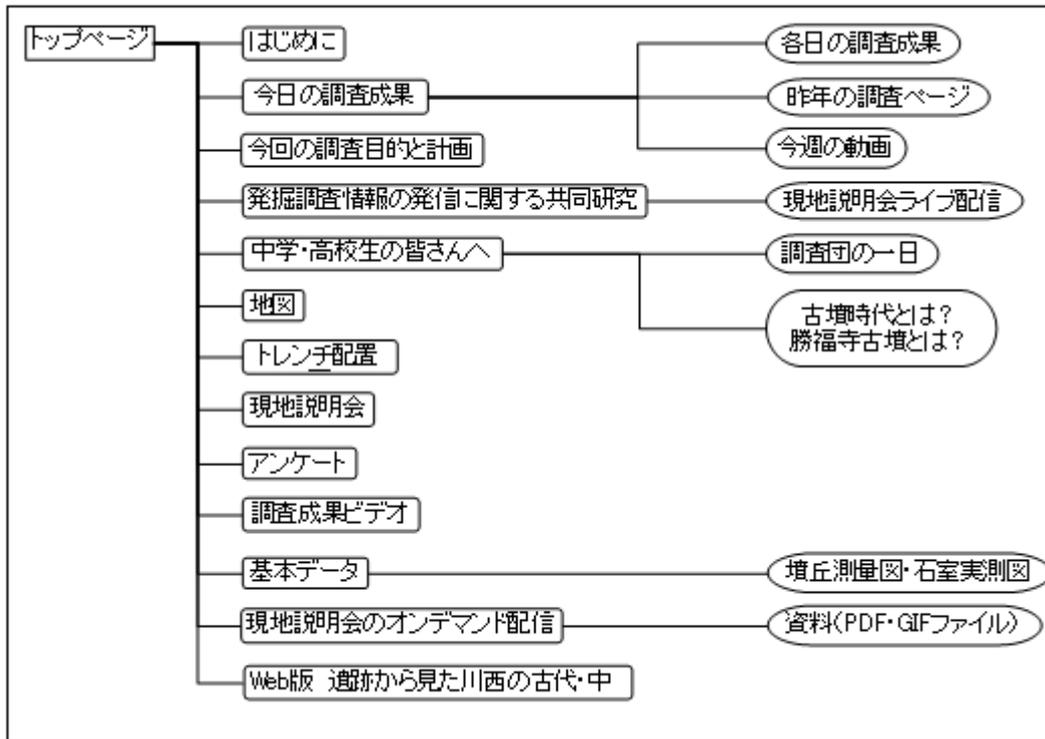


図2 2002年度大阪大学勝福寺古墳発掘調査のHP構成

発信側の環境 速報ページの対象となった勝福寺古墳の調査は、二ヶ年ともに泊まり込みの作業となった。そのため大学の高速回線を使うことができず、ノートパソコンでコンテンツを作成し、PCカード型のPHSを用いてアップロードを行った。また、サーバも大学のものは使わず、民間のプロバイダと契約してスペースを確保した。2001年度は3WEBを利用したが、時間帯によってはサーバへの接続に不都合が起こることがあったため、2002年度にはプロバイダをDTIに変更した。こちらは、調査期間中にサーバ障害が発生して更新が翌朝になったことが一度あったが、概ね良好であった。

(2) アンケートの内容と集計結果

アンケートの項目 当ページでは、閲覧者の意向を少しでも反映させていくためにアンケート調査を実施した。客観的な意見を求めることにより、閲覧者に当ページがどのように捉えられているのかを知る有効な手段と考えた。質問項目は主に調査を知った経緯と、コンテンツについて面白かったものと問題を感じたものを挙げてもらう形式である。

2001年度調査 発掘調査速報の初年度となった2001年の調査では、36件のアンケート回答を得た(図3～図5)。以下、質問項目ごとに傾向を見てみる。

最初の質問は、この発掘調査を知った経緯についてである。インターネットから直接情報を得た場合と、新聞報道を介して知った場合が大半であることが分かる。

アンケート調査 2001 年度

Q1. 今回の発掘調査は何を通して知りましたか？

- (a) インターネット
- (b) 新聞・雑誌・テレビ
- (c) FAX・案内状
- (d) 友人・知人に聞いて
- (e) その他

Q2. 大阪大学考古学研究室ホームページの事はどうして知りましたか？

- (a) 検索ページ
- (b) リンクを通して
- (c) FAX・案内状
- (d) 友人・知人に聞いて
- (e) その他

Q3. ホームページの内容について、どのページが一番面白かったですか？

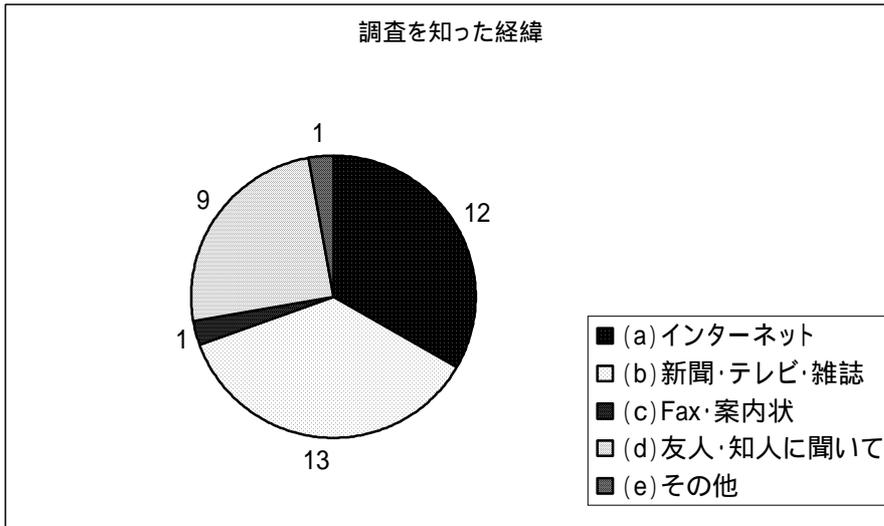
- (a) 今日の調査成果
- (b) 今回の調査目的と計画
- (c) 古墳の三次元デジタル計測の共同研究
- (d) 中学・高校生の皆さんへ
- (e) 面白いページはなかった

Q4. このホームページについて、難点を挙げるとするとどれに近いですか？

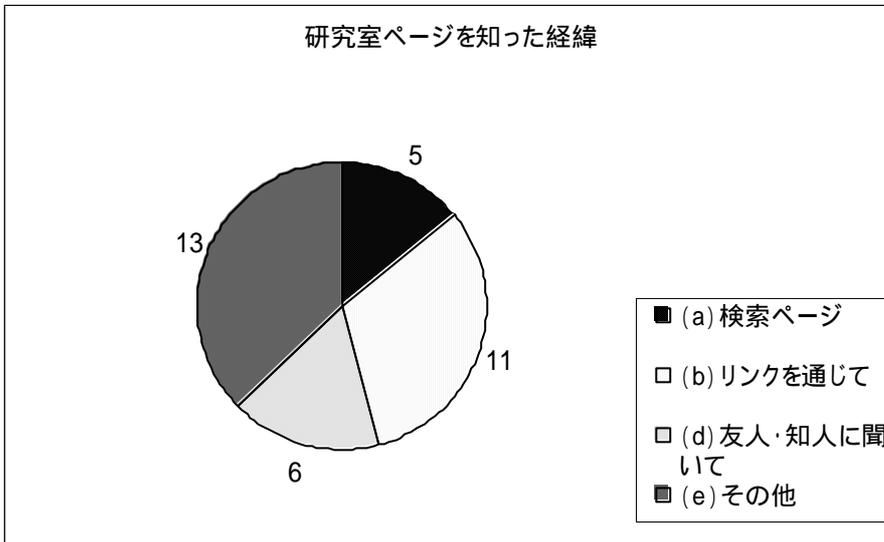
- (a) 内容が難しすぎる
- (b) 内容が簡単すぎる
- (c) 構成がまずい
- (d) 文章がまずい
- (e) 映像がまずい

Q5. 年齢・性別・職業

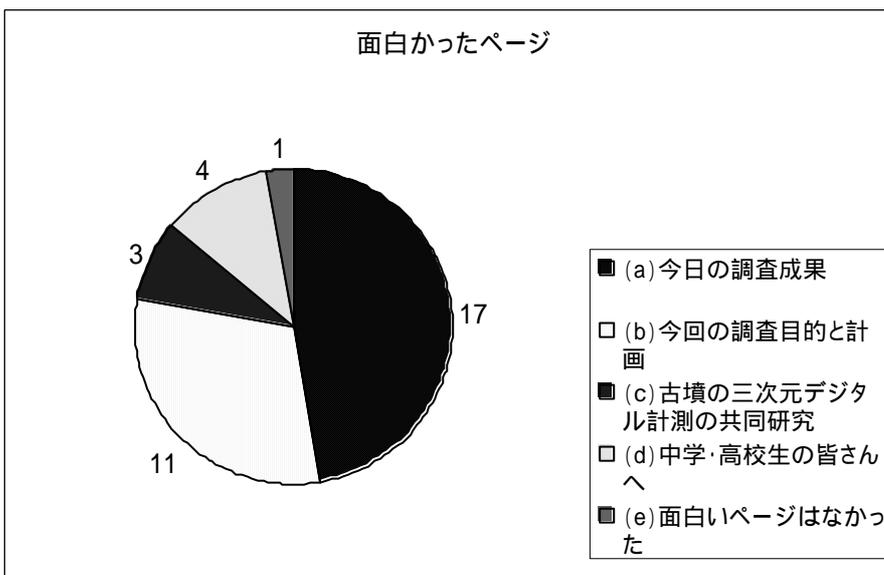
図3 2001年度のアンケート調査項目



Q 1 に対する回答

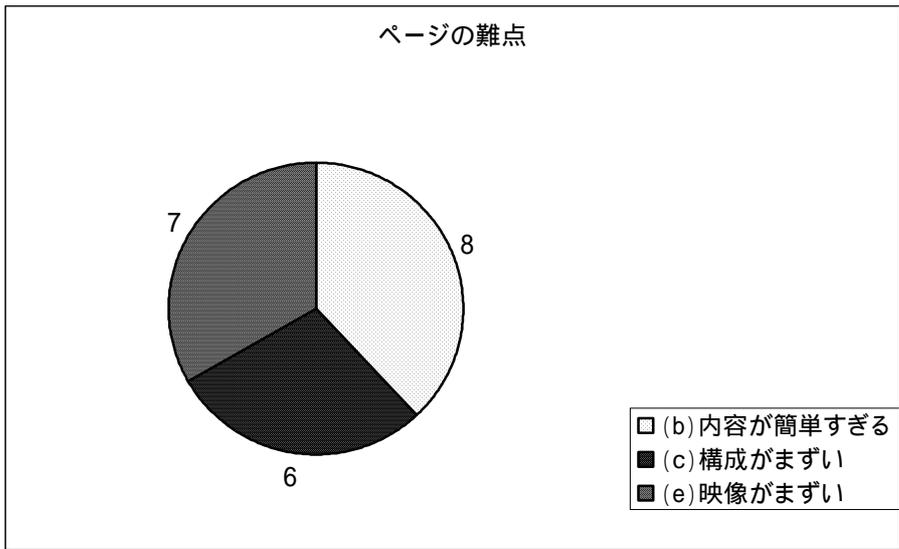


Q 2 に対する回答

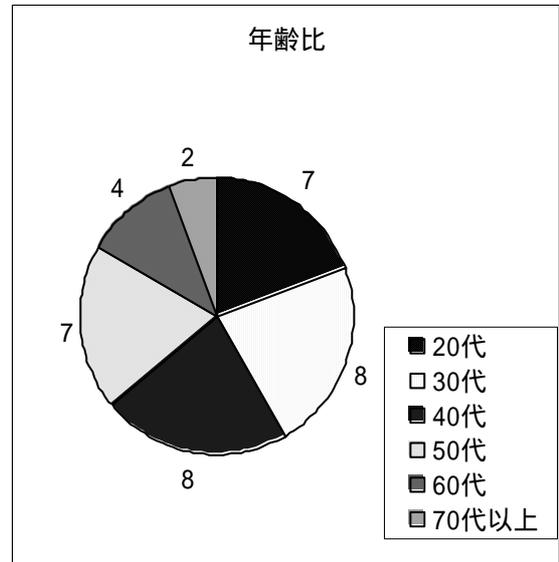
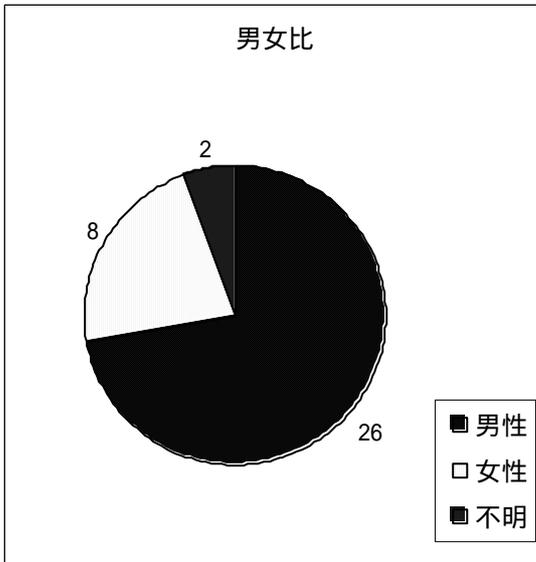


Q 3 に対する回答

図 4 2001 年のアンケートに対する回答 (1)



Q 4 に対する回答



Q 5 に対する回答

図5 2001年のアンケートに対する回答(2)

二問目だが、「その他」に回答が集中している。同数になっているのは偶然かもしれないが、これも主に新聞によるものだと判断できる。また、検索ページを使って訪れた人からも少数ながら回答があった。残りは、各種機関のリンクページから訪れた人が多いことがわかる。

三問目は、面白いと感じたコンテンツを問うものである。メインコンテンツである「今日の調査成果」に回答が集中するものと考えていたが、予想外に「今回の調査目的と計画」への回答が目立った。また、「中学・高校生の皆さんへ」へも一定の評価が得られた。

四問目は、逆に問題があると感じた点についてである。アンケート調査を実施するに際して、最も重要な質問であると言える。結果を見てみると、「難しすぎる」という回答はなく「簡単すぎる」が8件ある。「構成がまずい」「映像がまずい」という回答については、閲覧環境

と動画コンテンツが要因になっていると考えた。詳しくは次章で述べたい。

最後に年代と性別の傾向だが、10代からの回答はなく、その他の年代からはまんべんなく回答があった。また、性別については男性が圧倒的に多い結果となった。

2002年度調査 続く2002年度の調査では、66件の回答を得ることができた(図6～図8)。以下、2001年度と同じく質問項目ごとに結果を概観していく。

調査を知った経緯については、昨年同様の傾向が表れた。やはり基本的には新聞報道の影響が強い。

当ページを知った経緯だが、「その他」が20件と最も多くなっている。これも昨年同様、新聞報道で知ったという場合が殆どだと思われる。また、検索ページから訪れる人も増加傾向にある。

面白かったコンテンツでは、「今週のビデオ映像」に21件の回答があった。そして昨年同様、「今回の調査目的と計画」へも興味が示されていることが分かる。

一方、難点として挙げられているのも「映像・写真などが不鮮明」が16件と最も多い。内容量については、「多すぎる」という回答はなく「少なすぎる」という回答が10件あった。また、2001年度とは異なる傾向を示した点として、「専門用語が多く難解」という回答が「専門用語が少なく曖昧」を上回った。「構成が乱れ、見にくい」という回答には、昨年同様の問題を含んでいると思われる。

2002年度のアンケートでは、10代からの回答も9件寄せられた。その一方で、70代以上からの回答はなかった。全体的には、40代以上からの回答が多数を占める。性別についてはやはり男性からの回答が多いが、昨年と比較すると女性からの回答も増加している。

都道府県別に見ると、地元の大阪府・兵庫県が突出している。自分の住む地域の発掘調査に興味を持っている人は少なくないと思われる。また、日本経済新聞の東京版(注2)に記事が掲載された影響で、東京都からの回答もやや多い結果となった。

最後に接続環境だが、DSL とケーブルテレビからのアクセスが半数を越えている。次章でも述べるが、日本国内の接続環境の割合とは異なる結果を示した。

二ヶ年の総合結果 ここでは、特に内容に関する質問であるQ3.とQ4.について二ヶ年分の回答を総合し、選択肢ごとに年代別の分類を行った。なお、2001年度と2002年度では選択肢に変化をつけたため、便宜的に2002年度の選択肢を基準とした(図9・図10)。Q3.については2001年度のQ3-c「古墳の三次元デジタル計測の共同研究」を2002年度のQ3-d「共同研究」へ統合した。Q4.についても2001年度のQ4-b「内容が簡単すぎる」Q4-c「構成がまずい」Q4-e「映像がまずい」をそれぞれ2002年度のQ4-d「専門用語が少なく曖昧」Q4-f「構成が乱れ見にくい」Q4-g「映像・写真などが不鮮明」としてカウントした。以下、特徴的な結果を示した選択肢について概観する。

まずはQ3.だが、Q3-a「今日の調査成果」を面白いと感じた人は70代を除く各年代に分布している。中でも40代からの回答が約三割を占めている。一方、Q3-b「今週のビデオ映像」

アンケート調査 2002 年度

Q1. 今回の発掘調査は何を通して知りましたか？

- (a) インターネット
- (b) 新聞・雑誌・テレビ
- (c) FAX・案内状
- (d) 友人・知人に聞いて
- (e) その他

Q2. 大阪大学考古学研究室ホームページの URL はどうして知りましたか？

- (a) 検索ページ
- (b) リンクを通して
- (c) FAX・案内状
- (d) 友人・知人に聞いて
- (e) その他

Q3. ホームページの内容について、どのページが一番面白かったですか？

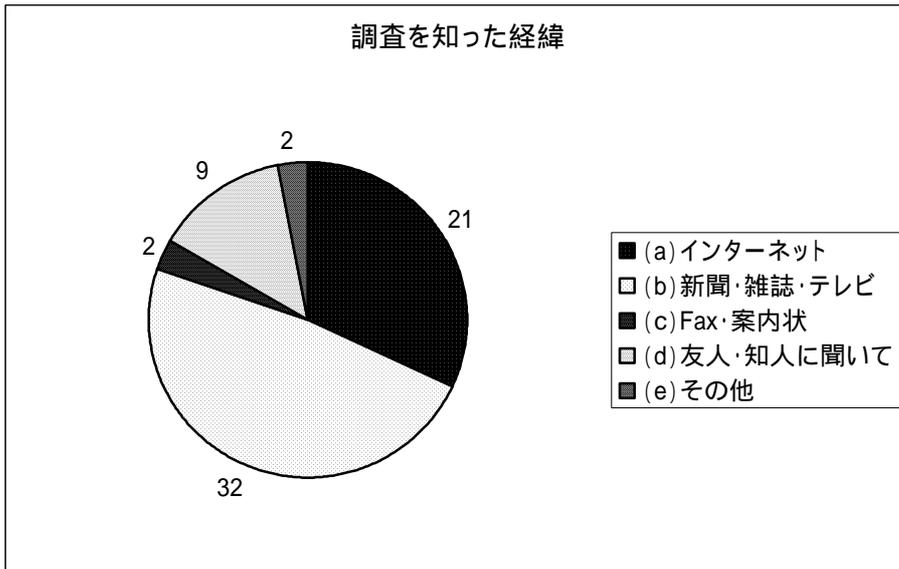
- (a) 今日の調査成果
- (b) 今週のビデオ映像
- (c) 今回の調査目的と計画
- (d) 共同研究
- (e) 中学・高校生の皆さんへ
- (f) 周辺遺跡のご紹介
- (g) 面白いページはなかった

Q4. このホームページについて、難点を挙げるとするとどれに近いですか？

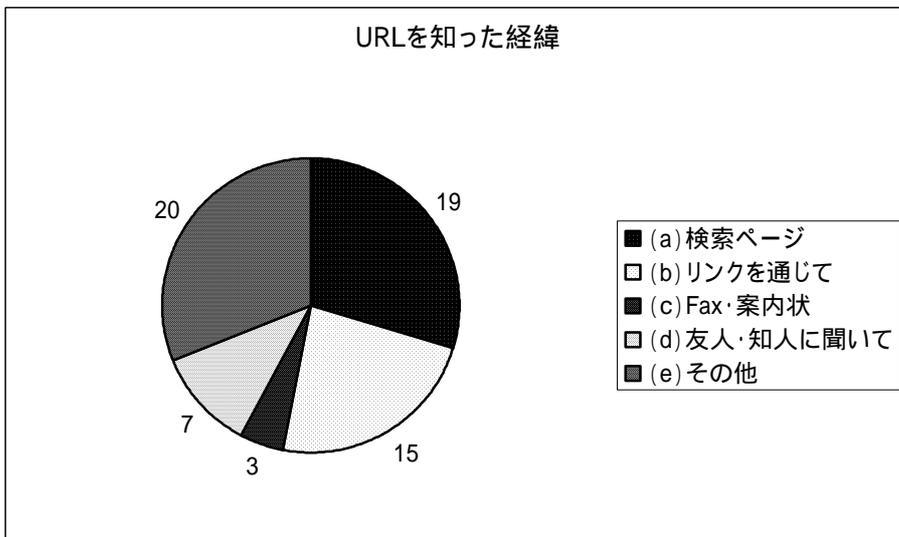
- (a) 内容量が少なすぎる
- (b) 内容が多すぎる
- (c) 専門用語が多すぎて難解だ
- (d) 専門用語が少なく曖昧だ
- (e) 映像・写真などが不鮮明
- (f) 構成が乱れ見にくい
- (g) 欠点はない

Q5. 年齢・性別・職業・都道府県・接続環境

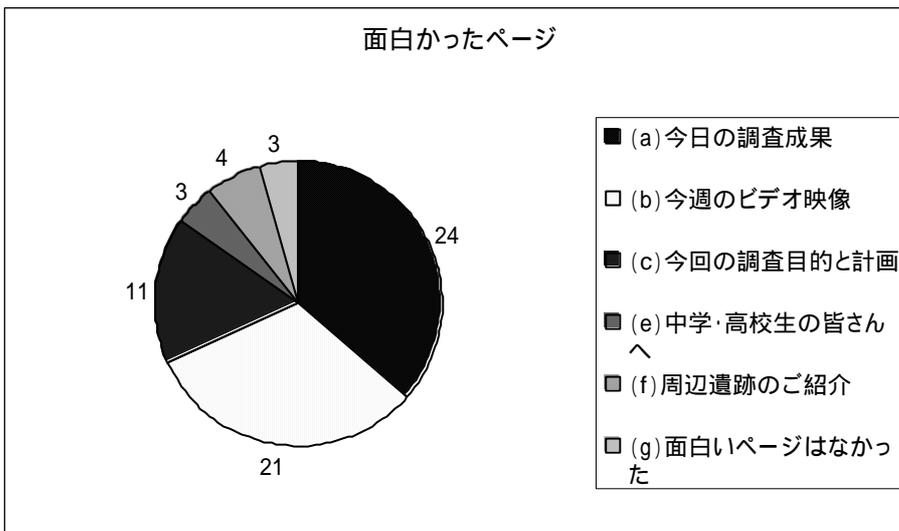
図 6 2002 年度のアンケート調査項目



Q 1 に対する回答

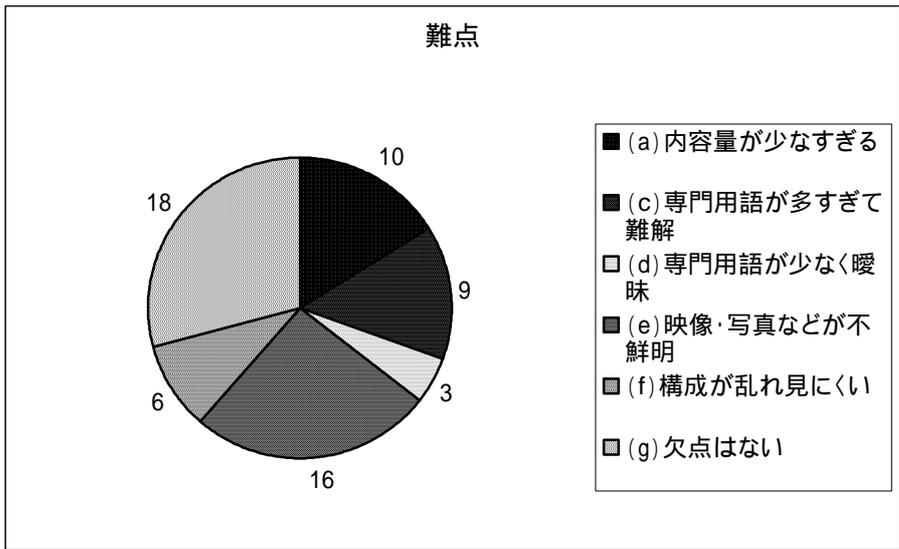


Q 2 に対する回答

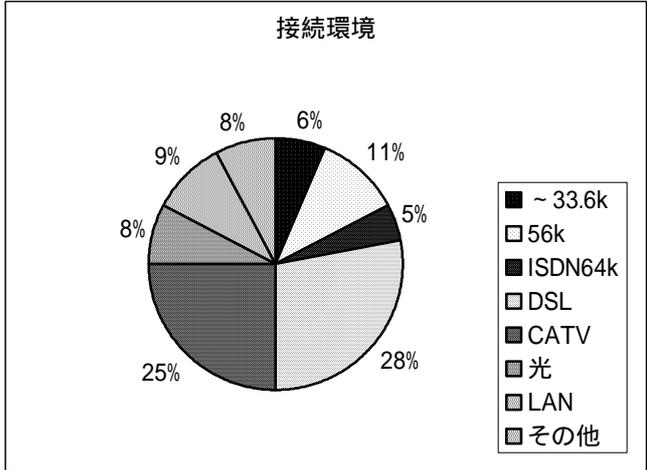


Q 3 に対する回答

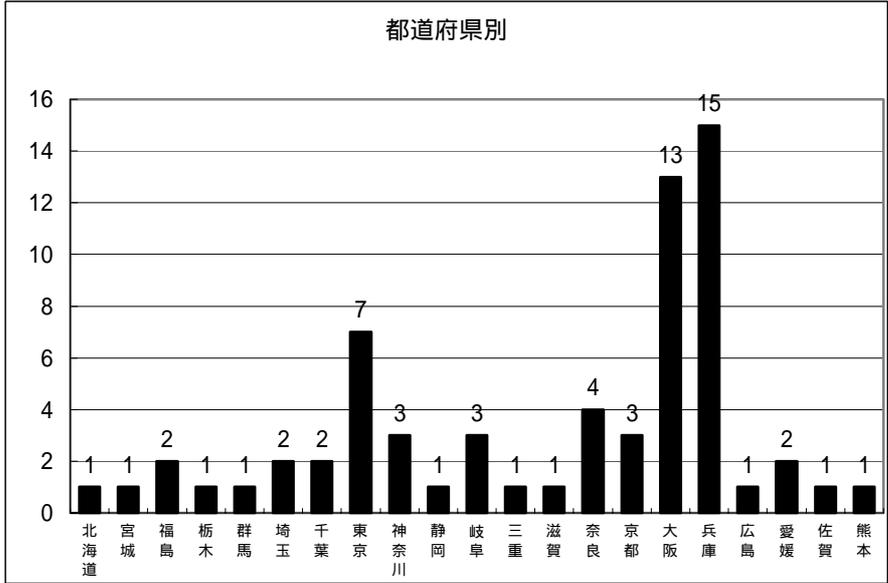
図 7 2002 年のアンケートに対する回答 (1)



Q 4 に対する回答



Q 5 に対する回答



Q 5 に対する回答

図 8 2002 年のアンケートに対する回答 (2)

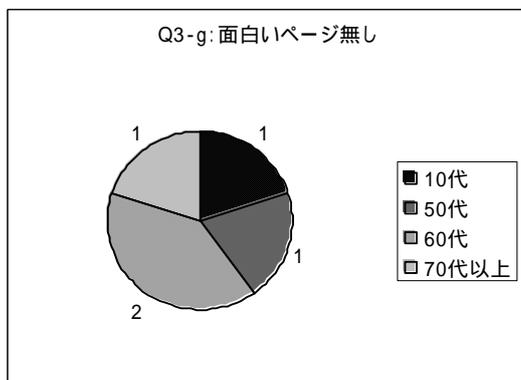
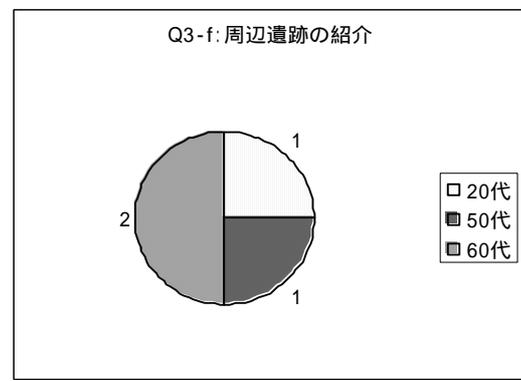
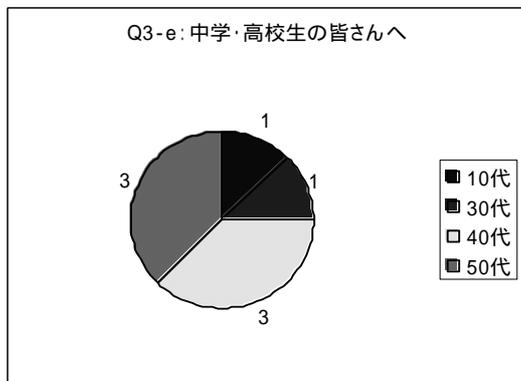
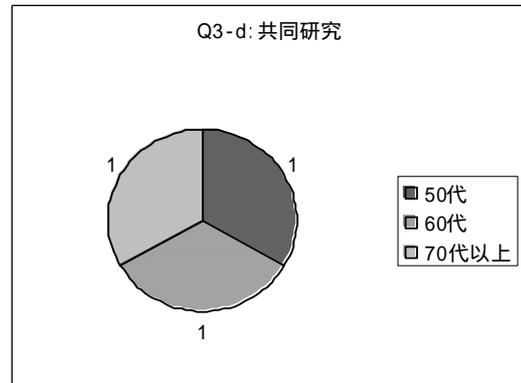
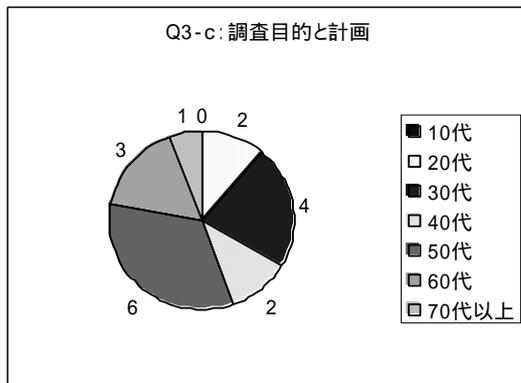
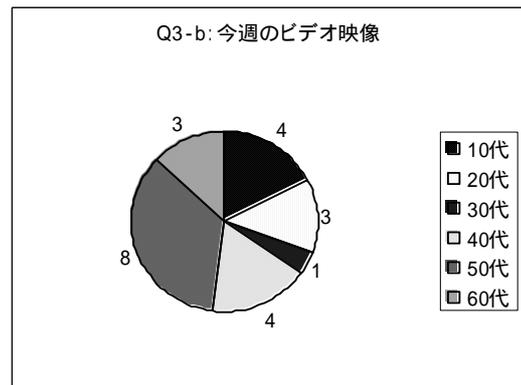
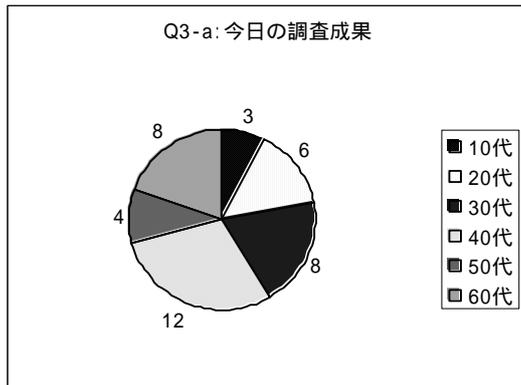


図9 世代別に見た「面白かったページ」の回答(2001年、2002年合計)

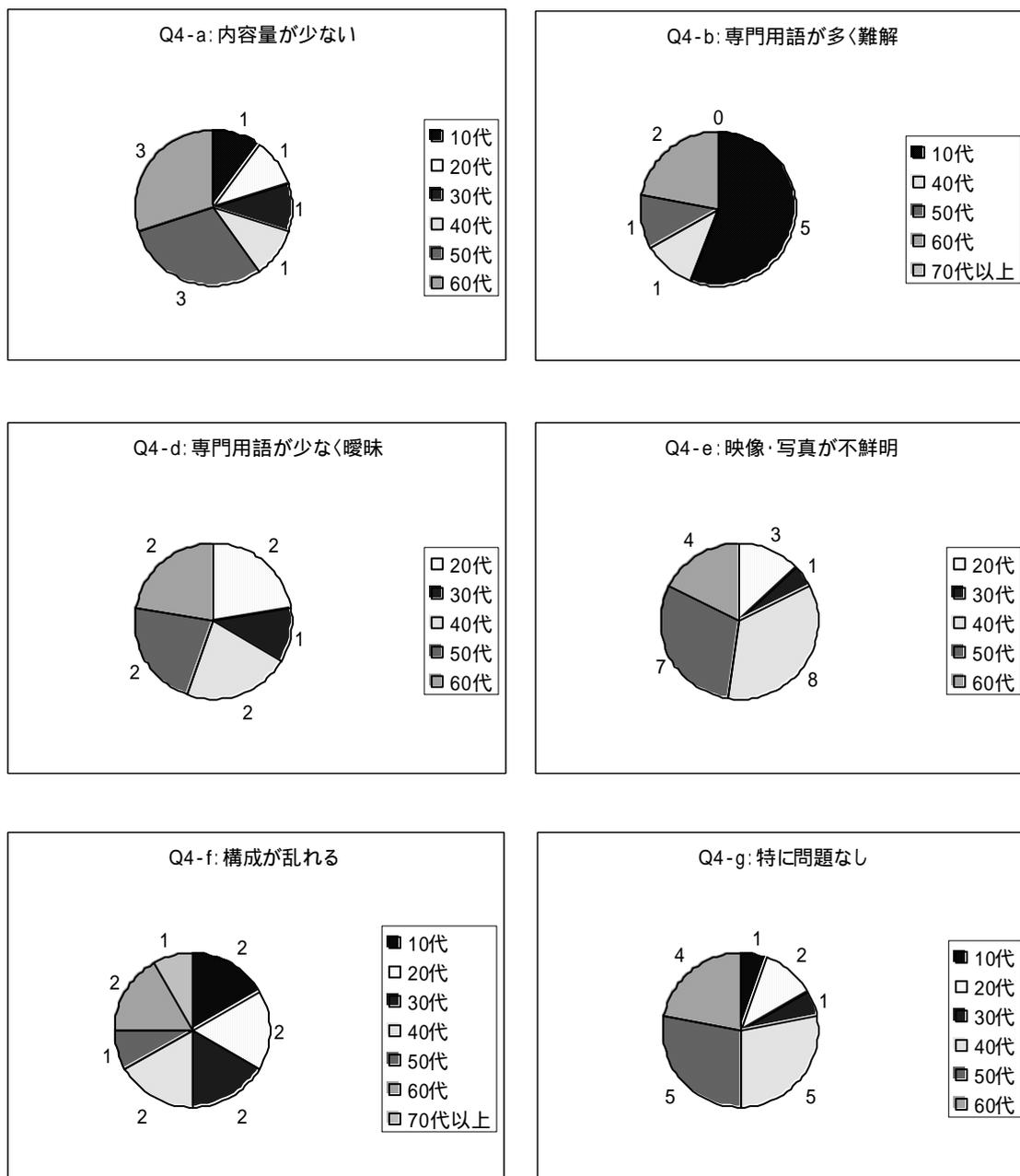


図 10 世代別に見た「ホームページの難点」の回答

および Q3-c「今回の調査目的と計画」に興味を示したのは、50代が中心となっている。Q3-e「中学・高校生の皆さんへ」は、40代及び50代からの回答が顕著な結果となった。

そして Q4.だが、内容量が多すぎるという回答はなく、Q4-a「内容量が少なすぎる」へ50代及び60代を中心に回答があった。Q4-c「専門用語が多く難解」へは、10代からの回答が集中した。その一方で Q4-d「専門用語が少なく曖昧」という回答も同数得られている。

(3) アンケート集計結果の分析

2001年度調査 Q1.から順に見ていく。「新聞・テレビ・雑誌」という回答については、殆

どが新聞だと考えている。NHK のニュースで取り上げられたことからテレビで知った場合もあると思うが、毎日新聞全国版をはじめとして各紙に記事が掲載され、調査終了後も読売新聞で特集が組まれたことなどを考えると、やはり新聞が主要な伝達媒体であったと判断するのが妥当であろう。

Q2.の「その他」も、同様に新聞によるものだと考えたい。コンテンツ自体はインターネットを利用したものだが、基本情報の伝播には新聞報道に依るところが大きい。また、検索ページを利用してのアクセスについては、それだけの興味を持ってもらうことができたと積極的に評価したい。

Q3.では、「今回の調査目的と計画」への回答が多かったことに留意したい。一般社会にとって、発掘調査は何をしているのか分かりにくいということの裏返しだと考えるべきである。その目的を明らかにしていくことの重要性を訴えておきたい。現在でも「考古学 = 宝探し」という印象を持っている人は多い。この部分の説明を怠ると、いつまで経っても誤解が解けない恐れがある。

Q4.の「構成がまずい」という回答には、ふたつの要因が想定できる。まず、単純にレイアウトやリンクに関して難があると判断された場合。そして、閲覧に用いているブラウザの問題である。利用者が最も多いと思われる Internet Explorer での閲覧を想定しているため、その他のブラウザを使うと構成が乱れることがある(注3)。また、映像に関しては特に動画クリップに問題があったと考えている。初年度は準備も技術も不十分であり、圧縮率の悪いフォーマット(注4)を用いてしまった。その結果、更新頻度の割には効果的なコンテンツとすることができず、大きな反省材料となった。

2002 年度調査 Q1.については昨年度と大きな変化はない。新聞報道の影響が大きいことは十分承知していたが、Q2.で独立した選択肢として設定しなかったために「その他」に回答が集中してしまった。アンケート項目の内容についても吟味の必要を感じた。

動画クリップについては昨年度の反省を踏まえ、更新頻度を落として一本の時間を長くし、フォーマットも圧縮率の良いものに転換した(注5)。また、閲覧者の接続環境を考慮し、同じ内容のクリップに対してサイズの異なる二種類のファイルを用意した。こういった改良が、Q3.における「今週のビデオ映像」への回答に反映されていると評価している。「今回の調査計画と目的」については前述の通りである。

Q4.だが、「少なすぎる」という回答が多いことは真摯に受け止めねばならない。自分たちが頑張ったつもりでも、閲覧者に少ないと言われるようでは問題がある。判断は閲覧者に委ねられているのだ。時間の許す限り、コンテンツの充実を図っていく必要がある(注6)。

2001 年度のアンケートでは見られなかったのが、難解であるという反応である。これをどう捉えるかは重要な点だと考える。詳細については後節に譲りたい。

映像だが、動画に関しては一定の評価を得られたと考えている。しかし、静止画は確かに不鮮明なものが混在し、改善の余地を残した。ナローバンドでの閲覧に基準を設けたため、

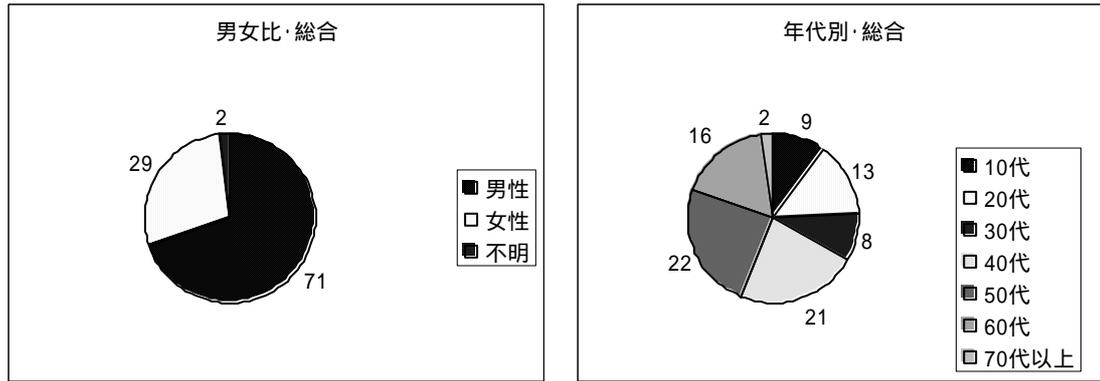


図 11 ホームページアクセス人数の性別世代別内訳 (2001 年・2002 年合計)

画像をやや小さくしているのが原因であろう(注7)。画像が小さいと、広いアングルの写真を掲載した際に内容が分かりにくい場合がある。ブロードバンド化が進行すればある程度解消される問題ではあると思うが、素材となる写真の撮影についても考える必要がある。

そこで接続環境を見てみると、アンケート上ではブロードバンド接続が半数を越えている。国内の現状が正確には反映されない結果となったが(注8)、着実にブロードバンド化が進んでいる状況が見て取れる。

二ヶ年の総合結果 Q3-e では本来のターゲットである 10 代よりも、40・50 代からの回答が目立った。全体的な内容が難解であると感じた人へ、基本情報を伝達する補助的な役割を果たしたと解釈できる。また、Q4-c に 10 代からの回答が集中したことに関しても、中学・高校生には難解だと捉えられていることを裏付ける結果となった。10 代に対しては別ページを設けて基本的な情報を提供していたが、まだ不十分だということだろう。どちらの項目についても、ページの難易度を考える上で示唆的な傾向を見せている。

回答者全体の年代比については、40 代及び 50 代の男性からの回答が群を抜いている。この年代層に、考古学への関心を持っている人が多いと判断できる。

(4) アンケート分析から見た情報発信の課題

内容の分量 以上、二章にわたってアンケートの結果及び傾向を見てきた。特に大きな問題として認識されるのが、内容の分量と難度である。まず分量についてだが、我々は Web 上に詳細な説明文を掲載することに対して躊躇があった。非常な興味を持って訪れている人は別として、試しに来てみたという場合、眼前に長文が表示された時に読んでもらえる保証がない。敬遠される可能性が高いだろう。とにかく閲覧してもらうのが目的であるから、簡潔な説明を心がけた。それが物足りなさにつながっているのならば、我々は大幅な意識の変革を迫られていることになる。大学の場合、ページ作成を直接担当する学生は必然的に入れ替わっていく。実践経験を蓄積し、研究室としてのスタイルを確立していく必要がある。冗長であってはならないが、より丁寧な説明が要求されていると肝に銘じなければならない。

内容の難度 難度は、最も根本的な問題である。ページ全体のコンセプトに関わってくる

からだ。即ち、こういった層に何をどのように伝えたいのかということである。ここをゆるがせにすれば、情報公開の意義も薄れてしまう。現状では「専門用語が少なく曖昧」という回答もあることから、専門的な知識を有している層に対しては中途半端に感じられていると判断できる。しかし、基本的には専門的な知識を持たない層に対しての訴求が必要不可欠であると考え。専門外の人に発掘調査とはどのようなものなのかを伝え、興味を持ってもらいたい。それが、ページ全体に通底するコンセプトである。準備不足にもかかわらず初年度から動画コンテンツの作成に踏み切ったのも、発掘調査を知らない人に場の雰囲気伝えたいという気持ちの発露であった。この観点に立つと、まだ十分に親切な説明はできていない状態にあると言わざるをえない(注9)。

方策のひとつとしてメールアドレスを公開し、閲覧者から直接疑問点を抽出してページ作成に反映させていくことも可能だろう。インターネットを利用する以上、大きな特性のひとつである双方向性を活用したい。

速報ページのメリット・デメリット 一連の旧石器発掘捏造により、日本考古学は厳しい批判に晒された。これは考古学研究の問題点が露呈したと同時に、市民の考古学に対する関心の高さを如実に物語る出来事でもあった。こういった状況を受け、発掘調査の現場が主体的に動くことができる手段として速報ページの存在意義を考えることができる。調査経過を公開することで、調査の透明性確保に一役買うことは可能だと考える。現場に緊張感をもたらす効果も期待できる。

しかし、日々の速報が負う可能性のあるリスクについても認識しておく必要がある。例えば、盗難の問題である。特に出土状況が重要な意味を持つ場合、図面作成や写真撮影が完了するまでは遺物を取り上げることができない。そのような状態で遺物の出土を報じた場合、あってはならないことだが盗難の危険性が発生することになる。逐一深夜の張り番を立てる労力を鑑みれば、ある程度状況が收拾してから報じた方が明らかに建設的ということになる。現状では、ここに調査速報の限界がある。どこまで「情報操作」を行うのか、調査速報を実践する場合には検討を要する。特に時間軸に対する意識が問題になると思われる。過度の操作は新たな捏造の温床となりかねない。現場の状況に即したバランス感覚が問われることになろう。

4 発掘現地説明会のインターネットライブ中継の意義と評価

今年度おこなった発掘現場からの情報発信において、前例のない試験的な取り組みとして力を入れたのが、インターネットを活用した発掘現地説明会のリアルタイムライブ中継である。その技術的な側面に重点をおいたシステムの有効性の検証はすでに通信総合研究所の河合由紀子、門林理恵子氏によって行われているが(注10)、ここでは文化財サイドの視点から今回の現地説明会のライブ中継の意義や効果について検討し、文化財活用における当該システムの改善点や将来性を考えてみよう。

(1) イベントの周知方法とその効果について

発掘調査の進展具合をインターネット上で連日発信する取り組みは、数年前に大阪大学考古学研究室が先鞭をつけたとはいえ、考古学界ではまだ一般的なものとはなっていないため、広く考古学ファンや生涯教育・学校教育関係者の間で認知を得るには至っていない。まして、現地説明会をライブ中継するという試みはまったく前例がないため、Webを比較的頻繁に閲覧する人々にとってもそうしたことがネット上で行われること自体が想像の範囲外の出来事であろう。そこで、ライブ中継の計画を事前に社会に対して周知することが必要になる。

ただ、発掘調査は一方では国・県のさまざまな補助金を投入して行われるので(注11)、情報の周知という点では一定の公平性を確保する配慮が必要となる。したがって、特定の私的なWebサイトにこちらからリンクを依頼することは行わなかった(注12)。

実際の周知にあたってはおもに次の3つの方法を採用した。

大阪大学考古学研究室から大学・自治体の文化財部局へ発送する「現地説明会案内」文書に、ライブ中継の情報を付記する。大学は考古学または文化財学の専任スタッフの在籍するところを中心に全国的に、自治体は近畿地方を中心に合計で約200箇所に案内を送付。また、同様の案内状を近隣の自治会等へも配布。

発掘調査情報を発信する大阪大学考古学研究室作成のWebページ(「勝福寺古墳発掘調査2002」)上にて、ライブ中継の情報や通信総合研究所との共同研究の内容・目的をしるし、かつ、通信総合研究所メディアインタラクショングループの関連Webページへのリンクをはる。

現地説明会前に行う調査成果のマスコミ向け発表の際に、ライブ中継の実施内容についての情報を伝える。

こうした周知方法は一定の効果を発揮した。大阪大学考古学研究室による「勝福寺古墳発掘調査2002」のページには連日100~200件のアクセスがあったので、少なくとも訪問者にはライブ中継の実施を周知することができたと考える。また、現地説明会が開催される1週間前頃からはそのトップページに「ライブ中継実施」を伝えるアニメーションGIF形式の見出しを加えて、周知効果の増大をはかった。

マスコミによる周知の力も大きかった。文化財活用の新しい取り組みとして各誌が関心を示して取り上げたが、<文末資料>に後掲するようにWeb上でのアンケートの自由記述をみると、マスコミから情報を得た人が複数みられた。記述内容から判断して、新聞誌上での情報をもとにWebページを訪れた人は、日頃からつねに遺跡や発掘に関心を持って情報に触れている文化財関係者や考古学ファンではなく、ごく普通の市民であったと思われる。したがって、上述した周知方法のそれぞれが異なる対象に対してそれぞれ有効に機能したと理解できよう。

(2) ライブ中継のコンテンツ

今回調査の対象となった古墳は、墳丘の長さが約40mの前方後円墳である。現地は比較的市街地には近いがうっそうと樹木が繁る丘陵上で見通しも良くない。さらに、調査は古墳の全

体を発掘するものではなく、古墳の各所に小面積の発掘区を設定して行うので、現地説明会は離れた発掘区を順次案内説明するという手順をとる。ライブ中継ではその様子を追いながら、映像と音声を Web にのせるわけだが、現地を訪ねたことのない閲覧者にとっては古墳の全景が見えないために、説明地点がどこにあたるのかを理解するのが困難になる。

そこで今回の取り組みのなかでは、中継映像と同期させる形で、古墳の全景・現在の説明位置・補足的な文字説明などが Web 上に現れるような工夫がなされた。たんなる映像の流し放しではなく、自宅にいながらこの古墳の調査内容を理解できるように配慮したコンテンツであり、今後この方法を洗練させてゆけば、きわめて魅力的な文化財情報の発信が可能になると考えられる。

そうしたコンテンツづくりには相当の労力を要する。発掘調査自体を遅滞なく進めるためには、調査に伴う多くの考古学的な作業を正確・迅速にこなす必要があり、コンテンツづくりにまで手が回らないというジレンマもある。しかし、あらかじめ今回のような形での情報発信を念頭に置いて、トレンチ配置、写真撮影、実測図作成、模式図や復元図の準備などを計画的に行っていれば、ある程度の負担軽減は可能であろう。これまでは、考古学の側には Web の限られた「空間」のなかで速やかに調査の全体像を伝えるという情報発信の考え自体が希薄であった。Web 発信信用の高いコンテンツ作りを発掘調査作業の中にいかに組み込んでいくかという、現場での応用研究をさらに積み重ねることが考古学関係者の側に求められているのである。

(3) ライブ中継の効果と改善点

映像配信サーバーへのアクセスログによると、今回のライブ中継ではのべ 752 件の映像再生が行われたことが確認されている(注 13)。アンケートの自由記述の中には、閲覧したくてもアクセスできなかつたと記されたものもあり、実際に意志を持ってアクセスを試みた人はさらに多かったと思われる。2002 年 8 月 10 日に実施した現地説明会への参加者が約 150 名、調査全体の Web ページである「勝福寺古墳発掘調査 2002」へのアクセス数が約 6000 であったことを考えるなら、ライブ中継に対して予想以上の関心が寄せられたと判断してよからう。

ただ、そうした閲覧者の満足度がどの程度であったかは残念ながら正確にわからない。今後は、ただアンケートに頼るだけでなくしかるべき人にモニタリングを依頼するなどして、システム全体の改善に結びつけていくことが必要であると痛感し反省した。

ここでは、筆者自身がライブ中継のテスト段階のものを閲覧した経験、実際に中継を閲覧した人からうかがったこと、アンケートに記されていた内容などを参考にいくつかの気づいた点を述べてみよう。

受け手に応じた情報提供のあり方 アンケートを見てもわかるように、閲覧者のなかには、インターネットを始めたばかりの人から 10 年以上の経験者まで含まれている。つまり、コンピュータ・リテラシーの面では多様なレベルの人が混在していることになる。十分にコンピュ

ータを使いこなせる人なら問題はないのであろうが、初心者の場合はページをたどるための説明を読みながらクリックを繰り返しようやくライブ中継の閲覧にたどり着くといった感じであろう。事実ライブ中継を閲覧した人からもそのような指摘をいただいた。これは、一方では「勝福寺古墳発掘調査 2002」のページデザインの問題でもあろうし、たほうでは中継ページにおける閲覧者の操作をいかに簡素化するかといった問題でもあろう。配信用サーバーのセキュリティの問題もあり限界はあるだろうが、理想的には「勝福寺古墳発掘調査 2002」ページから2～3回のクリックだけでライブ中継が閲覧できるというありかたが望ましい。

また、ライブ映像と調査に関する資料が同時に閲覧できるという方式も全体の理解にきわめて有効ではあるが、実際に閲覧するにはやはりサーバーログインなどに際して画面上である程度の手続きを行わなくてはならない。これを煩雑と考えるかどうかはコンピュータ・リテラシーやコンテンツに対する関心の程度にもよろうが、テレビに慣れ親しんだ一般の人々が「敷居が高い」「そうまでして見なくても」と感じてしまう可能性はある。

理想的なありかたはコンピュータ・リテラシーや文化財情報への希求度に応じて複数のメニューが用意されていることである。とにかく簡単に見ればよいという場合はワンクリックで「自走式」のプログラムが立ち上がるように、そして、欲しい情報が明らかな閲覧者の場合には自ら操作してその情報にたどり着けるように、といった具合で、いくつかの選択肢があれば望ましい。これは資料閲覧用のソフトウェアにも依存するが、受け手のレベルに応じた情報提供が可能になれば、学校教育や生涯教育の場においても、活用の幅が広がるであろう。

接続環境の問題 今回のライブ中継においては、ADSL 用の広帯域配信、ISDN 用の低帯域配信の二者を提供したが、低帯域配信ではコマ落ちなどが生じ、有効な情報伝達とはならなかった。今年度 Web ページ「勝福寺古墳発掘調査 2002」において実施した接続環境に関するアンケート結果は 23 頁に掲載しているが、光ファイバー、ADSL、CATV などの広帯域利用者が 5 割をこえていた。とはいえ、64kbps 以下の環境で接続していた閲覧者も一定程度存在しており、また前述のように全国的に見ればこうした低帯域環境下のネット利用者のほうがなお多数派である(注8)。

広帯域化が急速に進んでいるとはいえ、なおそうした環境にない多数の利用者のことを考えるなら、今回のように映像のサイズを小さくしても広帯域とおなじコンテンツを配信するのか、音声と静止画像でもよいからできるだけクリアなものを配信するのかという点について、全体の効果を勘案しながら検討する必要がある。もっとも、この問題は広域帯化の進展のすすみ具合によっては遠からず過去のものとなる可能性もある。

コストパフォーマンスについて 今回のライブ中継は、アクセス数が現地説明会への参加者を大きく上回っていることからみて、従来の現地説明会だけの公開方式ではとらえられなかった人々にも情報発信の輪を広げ、文化財活用の間口を大きく広げた点では効果的であったと評価できる。

ただ、限られた予算やスタッフをやりくりして文化財調査にあたる場合が多い地方自治体の

文化財部局がこの取り組みを推進するためには、技術的サポートが低価格で得られるような条件が整わなくてはならない。そのためには、全体としては簡素な中継システムを構築し、さまざまな遺跡で応用できるようにならばマニュアル化しておくことも重要である。

また、遺跡現場から配信用サーバーまでの経路をいかに少ないロスで安価につなぐかという点もきわめて現実的な問題である。今回は比較的市街地に近い現場でもあり、大規模な工事もなく ADSL 回線を現地にまで引き込むことができたが、人里離れた現場の場合は同様の方法はとりにくい。今後無線通信が発達してくれば容易に解決できる問題かもしれないが、現状では、ライブ中継にあまりにもコストを要する場合には（そのコストをさらに有効な文化財情報発信の方法へと振り向けた方が適切な場合には）、厳密な意味での「同時性」にこだわるのは賢明とはいえない。その意味では、今回調査終了後二ヶ月間にわたって行ったオンデマンド方式による現地説明会映像の発信が、より有効性をもち効果を発揮する場合も多いだろう。

（４）ライブ中継情報のオンデマンド発信の有効性

上述したように、効果とコストを勘案してリアルタイムライブ中継の実施が現実的でない場合には、多少時間的には遅れても、同様の情報をオンデマンドで配信する方が有効である。今回の共同研究では、現地説明会の動画と説明会当日に配布した解説資料の内容を同期させて視聴・閲覧できるコンテンツを構築し、説明会終了後から二ヶ月間に限定してではあるが、広く公開した。サーバーの関係で同時にアクセスできるユーザー数は 50 名までとしたが、アクセス時間帯がとくに集中することはないので、実用レベルとしても十分に有効であろう。周知方法は、Web ページ「勝福寺古墳発掘調査 2002」の表紙に「オンデマンド配信」の案内とリンクを明示することによった。

現地説明会におけるライブ中継とおなじ内容が解説資料とともに示されるという公開法は、これまでの考古学界には見られなかったもので、きわめて新鮮であるとともに内容理解に対する効果も大きいと感じられた。とりわけ、長期にわたってサーバーに置くことができるので、反復した閲覧が可能である点が効果的である。たとえば、学校教育において「社会」や「総合的な学習」の時間を利用して、地域の最新の文化財情報を Web で学習し、次の時間には遺跡現場に行って体験するといった活用方法が現実として可能である。大学や自治体の文化財部局と連携してコンテンツを充実させ、博物館や学校などの端末からアクセスできるようにしておけば、これまでにない形の文化財活用の道が開けるであろう。

問題点としては、リアルタイムのライブ中継の場合と同様に、コンテンツにたどり着くまでの操作がやや複雑であることがあげられる。これは程度の問題でもあるが、やはり閲覧者のコンピュータ運用能力に応じて複数のメニューから閲覧方法を選択できるシステムが必要なのではなからうか。

なお、今回のオンデマンド配信においては、サーバーのトラブルからアクセスできない日が長期にわたったことが残念であった。有望な方法であるだけに、正常な状態ならさらに多くのアクセスがあり、システムの改良について閲覧者側の意見を参考にすることができたと惜しま

れる。サーバートラブルの原因解明と早期復旧の手だてが今後の課題になろう。

5 おわりに

現在では、小学校のカリキュラムの中にもコンピュータを使った取り組みが見られるようになった。こうした世代が社会を担う数十年後には、技術の進歩ともあいまって、インターネット上を流れる情報量は格段に大きくなり、それを利用することがあたかも空気を吸い水を飲むことのように生活のごく自然な部分として定着するであろう。

たほう、1972年の奈良県高松塚古墳の発掘調査に始まった「考古学ブーム」は、もはやブームとは呼びえないほど息の長い、また底辺の広い波となり、今日に至っている。各地で遺跡を活用した町づくり、村おこしが行われ、学校教育や生涯教育でも日本や地域の歴史遺産にふれる取り組みが活発化している。

冒頭にも述べたように、文化財を理解するには現地を訪ねて、あるいは手にとって体感するのが理想的である。しかし、さまざまな理由でそれが難しいことの方が多いし、遺跡の場合はすでに破壊されてこの世に存在しないことも少なくない。三次元モデルや映像などデジタル化技術を効果的に駆使して作成した多彩なコンテンツを広く発信する取り組みは、こうした限界をうち破って文化財活用の裾野を大きく広げ、21世紀に暮らす人々の文化的な生活水準を格段に高める有力な手段の一つとなりうるのである。

付記

本稿の執筆は、福永伸哉(大阪大学大学院文学研究科助教授)が1・4・5章、清家章(大阪大学大学院文学研究科助手)が2章、横田深一郎(大阪大学文学部4回生)が3章をそれぞれ分担した。所属は2003年3月現在。

<注>

- (1) 調査期間中の述べアクセス数は二ヶ年ともに約6,000であった。
- (2) 2002年8月9日付夕刊。
- (3) 同じページでも、Internet Explorerを使った場合とNetscape Navigatorを使った場合とではレイアウト等に差が出ることもある。大抵の場合、どちらか一方での閲覧を想定したページ作成がされていることが多い。
- (4) 2001年度の速報ページではavi(Audio Video Interleaving)フォーマットを使用した。
- (5) 2002年度の速報ページではwmv(Windows Media Audio/Video)フォーマットに転換した。ASF(Advanced Streaming Format)と基本的には同じで、ストリーミング再生を前提とした形式のため画像・音声の圧縮率に優れる。
- (6) ただ、実際にそのような意見もあったのだが、いたずらにドラマチックな展開を要求されている感も否めない側面がある。特殊な遺物や遺構の発見はあくまでも結果であり、発掘自体は日々の地道な作業の積み重

ねであるということも理解してもらっていく必要性を感じる。

(7)二ヶ年とも 250×187 ピクセルに画像サイズを統一した。色調等多少の処理を加えているものの、静止画により多くの情報を包含させるためにはもう少し大きな画像の提供を考える必要がある。

(8)総務省によると、2002 年 9 月末現在で電話回線等を利用したダイヤルアップ型接続によるインターネット接続者は約 2,152 万人であり、未だブロードバンド利用者より遙かに多い(総務省 2002『インターネット接続サービスの利用者数の推移』)。

(9)端的な例としては、やはり用語の問題が挙げられる。考古学の世界では当然のように使われている言葉でも、一般に馴染みのないものは少なくない。しかし、本文中で逐一解説を加えていくと文章全体が煩雑になってしまう。そこで 2002 年度のページでは、ある程度の一般語彙への言い換えを試みた。また、どうしても専門用語が必要な場合にはカッコ書きで簡単な説明を添えた。具体的な展望としては、第 4 章で例を挙げるような用語集の作成が有効であると考えている。

(10)河合由紀子・門林理恵子「インターネットにおけるイベント映像のための中継システムの構築と検証」
『DBWeb2002』発表集 2002/12/3-4 東京

(11)今回の勝福寺古墳の発掘調査には、市費に加えて国・県の文化財関係の補助金、科学研究費補助金などが投入されている。

(12) また、日本でもはじめての試みであるだけに反響の大小を予測することができず、広く周知した場合アクセス過多により、結果としてライブ中継の同時性という最大のメリットを享受できない状況が生じることも懸念された。

(13)注 10 前掲河合・門林文献、p.165

<文末資料>

2001年度のHPアンケート欄に寄せられた意見・感想

リアルタイムで発掘情報を入手できる画期的なホームページだと思います。調査・研究業務が多忙な中、内容を持続的に更新していくことは何かと大変だと思われませんが、頑張ってください。(40代・男性・埋文関係者)

初めての試み、毎日を楽しみにしていきます。映像がまずいというのは写真が素人のスナップという印象だけ。これから良くなると期待している。いずれにしろ勇気ある挑戦と評価したい。あまり気張らず毎日続けて欲しいと思う。(50代・男性・埋文関係者)

調査の目的の中に今後の保存・活用に必要なデータを取ることも目的の一つとなっていますが、発掘調査終了後どのようにこの古墳を保存活用していくのかを掲載して欲しい。教育委員会と大学の役割分担という意見もあるかもしれませんが、発掘担当者としては発掘調査・報告書刊行で終了とは思わないで、そのごの保存・活用まで視野に入れた考え方だけは持っていて欲しいということです。(40代・埋文関係者)

現在、高3で、大阪大学で考古学が勉強したく、日々受験勉強に励んでいます。その上で、この考古学研究室のホームページは、モチベーションを保つのに格好のものとなっています。毎日更新を楽しみにしていますので、発掘の方頑張ってください。(10代・男・高校生)

とてもよい試みです。ご成功を期待しています。(60代・男性・一般企業)

映像とその解説を豊富にお願いします。(30代・男性・一般企業団体)

@niftyというパソコン通信の「考古学の部屋」でこのホームページのこと、勝福寺古墳発掘調査のことを知りました。毎日発掘状況を報告するとはスゴイですね。大変だとは思いますが、頑張ってください。楽しみにしています。(60代・男性・一般企業団体)

情報を広く公開することは、大変良いことです。期待しています頑張ってください。(50代・男性・一般企業団体)

今日の日経新聞に載っていたので、アクセスしました、最近考古学に興味を持ったので詳しくは判りませんが、発掘現場を“中継”してくれるというので、期待しています。現場が基本はなんの世界でも変わりがない、と思います。暑い中頑張ってください。(50代・男性・一般企業団体)

一般の考古学ファンとしましては、写真や動画を多く用いていただくとイメージがわきやすく興味が増します。調査の性質上、何かが出土したからといって大騒ぎするべきではないのでしょうか（捏造事件はマスコミの出土品に対する大騒ぎも背景の一つではないかと愚考しております）、ホームページの同時性を生かして科学的に不明なものでも掲載していただけると毎日の更新チェックにも張り合いがでます。（30代・一般企業団体）

奈良に住んでいることもあり、小学生の頃から古墳に興味を持っていました。色々と現地説明会に参加したりしましたが、発掘の新興をインターネットで見れるとは便利な世の中になったものだとつくづく思いました。私の近所にも3月に平野2号墳が発掘され、近所ということもあり暇を見つけては様子を見に行きましたが、やはり発掘の様子は見学させていただけませんでした。（当然とは思いますが・・・）我々一般の考古学ファンにとって画期的なホームページなので、更新を楽しみにしています。（20代・男性・一般企業団体）

発掘現場内の動画像の発信を期待しています。（40代・男性・一般企業団体）

毎日楽しみが増えそうです。（40代・女性・一般企業団体）

専門家だけではなく、一般の人たちにも分かり易くすることが必要、それには、毎日の作業の写真の量を1日に4・5枚ではなく、最低でも10～20点は必要で、一般用の文書と専門家用に近い文書が必要なのでは？（40代・男性・一般企業団体）

今日の新聞を見てこのホームページを知りました。毎日みたいと思います。成果を期待します。がんばってください。（40代・男性・一般企業団体）

勝福寺への地図をもうちょっと分かり易くして欲しい。（道路番号「国道 号線」）（50代・女性・一般企業団体）

すでに、去年も同様の報告をされてたとのこと。素晴らしいことと思います。テーママかかる上に、いろいろな配慮も必要でしょうし・・・。たしかに、大変苦勞して得た成果を、しばらく、自分たちのものにしておきたい、自分たちだけで検討したい、あるいは、得られた情報から名をはせる識見や論文を发表したい、ということも、苦勞した当事者の権利として分からないわけではありませんが、従来は傍から見ると、あまりにも恣意的に情報が独占されていたように思います。（コトは違いますが、伊能忠敬の制作地図の公表もそうです。）今回の試みは、われわれ一般人にとって日々楽しみだけでなく、日本の閉鎖的な「学術研究」体制・思想を変えていく具体的な力になると思

います。発掘の成果はもちろんですが、情報公開する姿勢・哲学が新しいせいかを生むことを期待しています。(50代・男性・一般企業団体)

私共の年齢になると、先がないとゆうか、夢が欲しいのです。まあもうしこし先には・・・と期待します。(60代・男性・一般企業団体)

発掘の状況や技術的な問題点などを掲示してくれるともっと臨場感が沸くのでは。発掘している学生や指導教官のコメントなどもあるともっと親しみが増すと思う。古墳のもつ意味を考えるコーナーなどもあるといいかもしれない。たとえば地元の人がこの古墳に対してどう思っているかなど。考古学は人間学だという観点に立てば、どうして掘るのか、掘ってどうするのか、葬られていた人はどんな人なのか、想像コーナーなどがあってもよい。

(50代・男性・一般企業団体)

こんばんは。ご苦労様です。

さて、本日少々気になりますところを申しますと、デジカメ(?)画像の色調にバラつきがありますが、その点については、やや調整が必要かと思えます。また見に参ります。野次馬をお許し下さい。(30代・埋文関係者)

毎日暑い中ご苦労様です。毎日更新するのは大変だと思いますが、最近の考古学界に対する不信感を回復する上でもがんばってください。日本の考古学のレベルの高さをアピールする上でも。(30代・男性・埋文関係者)

身近な勝福寺古墳が再調査され始めたことを、新聞で知りまして大変興味を覚えました。暑い中の作業はご苦労も多いことと思いますが、新たな真実を見つけ出すためにも頑張ってください。1市民として何かお手伝いできましたら、と思っております。毎日ホームページを拝見するのが楽しみです。(50代・女性・一般企業団体)

暑いさかりに発掘ご苦労様です。今後の発掘楽しみにしております。学生時分に、池上曽根遺跡の調査補助員をしていた頃を懐かしく思い出しながら、見せていただきます。本日7月21日付け日経新聞にて記事を読み立ち寄りしました。暑い中の発掘でしょうが、がんばってください。(50代・男性・一般企業団体)

イラストがもっと鮮明だと、よりよいと思います。暑い日が続きますが頑張ってください。(40代・男性・一般企業団体)

みなさん忙しいのに、よくこれだけの頁を作成しておられると感心しました。関係者の方々のご努力に、心からの敬意を表します。暑い中、みなさんのご健康を祈ります。（70代以上・男性・一般企業団体）

これから毎日楽しみにしています。毎日の調査、日誌作成、討論等で忙しい上に、このHPですから、スタッフのみなさまは大変だと思います。暑さも厳しいですので、体調管理に気をつけてください。応援しております（30代・女性・埋文関係者）

一昨年新潟の高速道路の工事現場で青田遺跡が田んぼのベトの中から遺跡として姿を現すまでの一部始終をダンプカーを運転しながら一年余りに渡って見てきました。タイムマシンが徐々に姿を見せてきたような、あの感動が忘れられません。毎日調査結果を知ることができると、新潟日報に出ていたので見ました。難しいことは分かりませんが、発掘の興奮が伝わってくるようです。暑い中本当にご苦労様です。頑張ってください。毎日楽しみにみせてもらいます。

つながりにくかった。もっと細かい状況まで見たい。（40代・男性・一般企業）

大変斬新な企画で面白かった。リアルタイムで発信される発掘の状況は実習を受けているような臨場感があった。他の発掘現場でも行っていただけると有難い。猛暑の中大変ご苦労様でした。古墳好きの爺より（60代・男性・一般企業）

職業は高校教員です。とてもわかりやすく現場の雰囲気伝わってきます。リアルタイムで情報を発信する今回の試みに感動しています。大変なエネルギーでしょう。関係者の皆さんご苦労様でした。いま古墳を調査していますが、刺激受け、立派なものにはなりません、なにか追究してみたくなりました。（40代）

皆様、お疲れさまでした。現説も盛況だったそうで。今回のネット速報、非常に有意義だったと思います。情報を公開する姿勢というのはこれから求められていく事でしょうから、その先鞭をつけた意味合いは大きいはずです。ヒット数が少ないとのことでしたが、まだ緒についたばかりですしあまり気にする必要はないと思います。当日編集など大変とは思いますが、是非これからも頑張ってください。（20代・男性・埋文関係者）

大変素晴らしい試みだと思います。（40代・男性・一般企業）

日々の成果が、毎日ホームページで見ることができるのは良いと思います。（20代・男性・考古

学専攻生)

我々一般のものにとっては、このホームページは願ってもない試みだと思います。調査と平行して、このようなホームページを維持管理していくのは大変にご苦労なこととは思いますが、今後も是非続けていただきたいと思います。他の調査グループにもこうした取り組みが普及することを望みます。(60代・男性・一般企業)

椿井大塚山古墳と三角縁神獣鏡のサイトのよう、大阪大学が発掘した報告書をホームページに載せて欲しいです。(30代・男性・一般企業)

毎日の作業とHPの更新ご苦労さんです。私などの一般の者がほぼリアルタイムに作業の状態を知ることができるなどありがたいことです。この時期、子供たちも考古学にロマンを持ち興味を発展させていく手助けになる行為ともなり宣伝しようと思います。三次元データ(DXF or IGESで)を公表していただけたら3DCGで楽しめます。よろしく願いいたします。(50代・男性・一般企業)

頑張ってますね。日々の更新、大変でしょうが現場の状況よく分かります。暑いですが皆さん身体には気をつけて成果を上げてください。(30代・男性・埋文関係者)

とても楽しい試みだと思います。楽しみに見ていきたいと思います。せっかく「中高生の皆さんへ」というページを設けたのなら、もっと初心者向けに考古学の用語の説明(専門用語が多いですね)とか設けたら、さらにみんなに興味を持ってもらえるのではないのでしょうか(そういうことが目的でなかったらすいません)。あとは、初心者向けにやわらかく絵などを利用して説明があると、読みやすいものになると思います。基本的なところはちゃんと解説してあって、ある程度の知識のある人には面白いページだと思います。(30代・女性・一般企業)

考古学に関心あり。定年後は関係することに関わりを持ちたい。(50代・男性・一般企業)

インターネットを10年以上見ておりますが、大学の一研究室の試みとしては興味深いものがありました。ありがとうございます。Bookmarkに貴研究室のアドレスを入力しました。(70代以上・男性・一般企業)

初めての試みに敬意を表しますと共に、今後の進展に期待しております。即日オンラインは肉体的精神的に御苦労も多いかと存じますが、猛暑の中健康に留意されて、良い成果が出る事を祈ります。(60代・男性・一般企業)

ちょっと考古学に興味のある人間には、中学・高校生向けのページがわかりやすかった。でも、映像はわかった気にさせる効果が大い。出土品も映像でお願いします。(40代・女性・一般企業)

HPで日々成果を発表して頂けるのはとても画期的な試みで、期待しております。中学生と高校生の子供がいるので、見せたいと思っております。中高生のためのページはわかりやすいですが、欲を言えばもっと基本的な説明も入れて頂きたかったです(例えば古墳とは何か、どんな古墳が有名か、横穴式石室とは何か、外国の古墳や墓と日本のそれとの比較など)。おすすめサイトへのリンクもあるといいと思います。図版の文字がほとんど見えないのですが、全体をもう少し拡大して頂ければと思います。(40代・女性・一般企業)

門外漢の私でも、非常にわかりやすく面白いです。暑い中、大変でしょうが頑張ってください。過去のカレンダーの日付のリンクが更新されてません。そこがちょっと見にくいです。(20代・男性・考古学非専攻生)

私は広島県立 高等学校で日本史を担当しています。また、同校のホームページ制作にも関わっています。このプロジェクトのことは、日経新聞で知りました。発掘途中からこうして情報公開されることは、大変勇気のいることと思いますし、中学生・高校生向けのコーナーを設けておられることにも好感を持ちました。ところで、ちょうど夏休み。本校ホームページからリンクを張らせていただいて生徒にも知らせたいと思いますが、了解いただけますか。(30代・男性・一般企業)

調査の実態について初めてよく分かりました(といえる可能性があるHPです)。頑張ってください。(40代・男性・一般企業)

遠隔地にいる人間には、なかなか現場に足を伸ばせないなので、今回の試みは非常に興味深く拝見させていただきました。現地説明会を開催されるなら、その情報を広く広報されることを望みます。(30代・男性・埋文関係者)

大いに期待してます。(50代・男性・一般企業)

このホームページを大いに楽しみにしております。今後の御活動に期待致します。(60代・男性・一般企業)

難しいことは解りませんが、古墳には昔の人のメッセージが詰まっていそうです。実家が伊丹なので近くで発掘されていたので、少し興味がありました。(20代・男性・一般企業団体)

今回のように発掘調査がリアルタイムでインターネットを使ってみることができるのは、とても面白いので、いろいろな情報を発信してほしい。(40代・男性・一般企業団体)

画期的なことであり、ぜひ成功させてください。(70代以上・男性・一般企業団体)

更新大変でしょうけど、頑張ってください(経験あるから、しんどいですよね・・・)。(20代・男性・埋文関係者)

2002年度のHPアンケート欄に寄せられた意見・感想

接続できない時があるので、できれば、接続できない時を予告(もしされておられるのであれば、予告をもう少し見つけやすく)して頂ければと、思います。(40代・男性・一般企業団体)

このページのおかげで、考古学に対するイメージが大きく変わりました。発掘作業の具体例によって、発掘の手法・視点等がわかりました。何れ所もトレンチを掘って、古墳の輪郭を明らかにしていく事等、部外者の私にとっては全く未知の話でした。私は今の今まで、発掘というのはいきなり玄室に入り込んで宝探しのように埋葬品を探す、という少年少女の読み物のような世界を想像していました。視点が大きく変わりました。(20代・男性・考古学非専攻生)

発掘している皆さん、 中学校の総合学習で発掘現場を見学させて頂き、一箇所、一箇所詳しく説明してもらったのでとても感激しました。その日は、バスをおりてから出会う人は皆優しい人ばかりでとてもありがたかったです。暑い中、皆さん体に気をつけて頑張ってください。どうもありがとうございました。このページは参考になりました。 中学校1年1組(10代・男性・中学生)

毎日暑い中ご苦労様です。この勝福寺のすぐそばで勤めています。すぐそばにこんな古墳があり、いったいどんな人の墓なのか？古代の川西の様子を子ども達とわくわく想像しました。一般向けに現地説明会は今年もあるのでしょうか？日曜日にも調査をつづけておられることに大変驚きました。(50代・女性・一般企業団体)

このホームページは、調査風景を一般にも公開するという点でたいへんすばらしい。特に調査風景の映像を見ることができるといふ点は斬新なアイデアだと思います。ただ、私が使用しているパソコンの性能が悪いのかもしれないが(古い型なので)、映像が鮮明でなかったことが残念でした。今後、埋文行政の仕事に就こうと思っているので、このような取り組みは参考にさせて頂こうと思っております。(20代・男性・考古学専攻生)

今、考古学に興味があるので、現地説明会にいけるのを楽しみにしています。(20代・女性・考古学非専攻生)

ようやくインターネット始めました。ちよくちよくのぞきます。暑い中、現場ご苦労さんです。残り少しですけどガンバって下さい。現説、できるだけ見に行くようにします。(40代・男性・埋文関係者)

埼玉大学名誉教授の先生の古代史入門の講座を受けていて、古墳に興味を持っています。暑い中、発掘調査ご苦労様です。古代史の解明を期待しています。ところで、動画を見せていただいたのですが、画面を大きくすると、ぼやけて良くわからず、小さい画面のままで見ました。パソコンも初心者なので、私の操作方法のせいだと思いますが、残念な気がしました。では、皆様、お体には十分気をつけて、頑張ってくださいね。西島。

(40代・女性・一般企業団体)

日経夕刊(8月9日、東京版)の記事で見かけ、早速アクセスしてみました。/ 技術的な面でのバックアップがあるとはいえ、毎日発信するという難事業に乗り出された勇気と、担当者のご苦労に敬意を表します。/ ビデオを見ました。考古学専攻の方には常識でしょうが、日常会話では出てこない言葉でしたので分かりにくいでした。何故そういう作業を行うのか、といった点をもうちょっと詳しく聞かせてください。/ プロジェクトリーダーの顔がもう少し見えてもよいのではないですか。/ (60代・男性・一般企業団体)

興味はあるのですが、現地まで赴く時間がなく、情報は新聞に限られていました。しかし、皆様のご努力により、居ながらの実地検分を体験でき、ありがたく思っております。酷暑の折、体調に気をつけて頑張ってください。(40代・男性・一般企業団体)

わかりやすい内容ですね。息子も興味をもっているので さっそく教えることにします。(40代・男性・一般企業団体)

写真を多く掲載してほしい。(50代・男性・一般企業団体)

初めて見せて頂きました。良かった。いつか川西の方に伺って現地や川西の町も見たいもの(60代・男性・一般企業団体)

私も考古学に興味がありまして、大学は本場の関西を受けるつもりでいます。応援してますので、これからも頑張ってください! 明日から、関西のオープンキャンパスに参加してきます (10代・女性・高校生)

14年8月9日付 日本経済新聞にて活動状況を知りました。毎日の発掘状況をインターネットにて公表するのは大変ですね。動画を見ましたが、もう少し画面を大きくしてもらえると見やすいと思います。(60代・男性・一般企業団体)

本日(8 / 10)の新聞記事(毎日新聞)を見てネット生中継があると知って来ましたが、生中継

はありませんでした。どこでやっているのかリンクもわかりません。昨日までの動画はきちんと見れました。ただいま午前11:15ですがもう終わってしまったのかとても残念です。川西市民としてこのような古墳があることを誇りに思っています。みなさん頑張ってください。(30代・男性・一般企業団体)

日経新聞200208.09の記事でURLも知りました。今回のような現地映像やライブ映像などに手軽にアクセスできる環境がより整備されることを望んでいます。(40代・男性・一般企業団体)

8月9日付け、日本経済新聞を見てアクセスしました。大学時代、発掘調査に没頭していた日々を思い出しました。今年は、特に暑い夏になりそうですが、がんばってください。(30代・男性・一般企業団体)

仕事を持つ主婦ですので、あまりテレビなどもゆっくり見ないので、情報を知らなかったのですが、お昼のニュースを見て、生中継、面白そうだと思い、すぐアクセスしましたが、11時55分だったので、終了してしまいました。セミとカラスの声と、皆様のお声が聞こえるので、普通に写真と文章を見せていただくより、面白く見せていただけたのではないかと思います。間に合わなかったのが残念でした。暑い中、大変な研究かと思いますが、どうか頑張ってください。また是非生中継を見たいので「お気に入り」にアドレスを追加しておきます。(40代・女性・一般企業団体)

今日現地説明会に参加させていただいていました。大学の聴講生で今大学のコンピュータ室に戻り、説明会の様子を見ようと試みましたが、残念ながら、このブラウザではつながりませんでした。現場を直接みて、ホームページでも見れるなんて、いいと思います。私も大学でホームページを作っていますが、現地説明会などを、掲載しています。もちろん、学内だけですが……このページにもリンクを張ります。皆に見てもらいたいですね。(50代・女性・一般企業団体)

今日のインターネットライブ中継を見ましたが、いながらにして現地説明会が見られるとは驚きです。それからビデオ映像も楽しみに見えています。(50代・男性・一般企業団体)

小学校の頃より邪馬台国や古代の埋蔵物に興味がありました。今回ニュースで”川西市の遺跡……”と聞いた時は、一度この目で見てみたいと思いました。現在私たちが住んでいる建物や日常目にしているものが遠い未来に埋蔵物として発掘されたとき、人々は何を思うのでしょうか？(50代・男性・一般企業団体)

雑用があり現地にいけませんでした。過去のどの古墳発掘の説明会も行けませんでした。しかし、この企画、インターネットで現地情報が得られるのはありがたいと感謝します。(60代・女性)

7月18日の須恵器片の写真はいただけない。せっかく写真で示すのであるなら無地の背景でもっと判り易いものにすべきだった。地べたにほっぽり投げての撮影では気配りが足りない。埋まっていたことを示したいなら、掘り出してしまった後にネット用に撮影するのでなく、掘り出し途中の半分埋まっている状態が撮影してあるはずだから、その写真を利用することで見る者をして納得させ、さらに興味を持たせることになると思う。この「ネットで公開」は、遺跡発掘にかかっている「うさんくささ」を払拭するに良い考えだと思う。どうぞ、暑さに負けず、がんばってください。
(60代・男性・一般企業団体)

各ページのリンクが複雑すぎて、パソコンのインターネット初心者には少々難解!(いったい私は、どこからどこへ行くのでしょうか。どうやって戻ったらいいの?)こんなアホな人間でも、HP内を分かりやすく行き来できたら、さらに嬉しいです。 難点:上記です。 その他:新聞です。(30代・男性・一般企業団体)

発掘調査の過程をこのような形で見ることができ嬉しいです。考古学には興味を持っていますが専門的に勉強したことがありませんので、参考になりました。これからもこのような企画を続けてください。(40代・男性・一般企業団体)

見たかったなあ(30代・男性・一般企業団体)

インターネットによるリアルタイムの情報伝達を考古学にも生かすことはさすが阪大生。関心をもって見せてもらった。まだ、コンピュータになれていなかったので動画の見方がわからなかった。ビデオを見るようにすればよいのかとと思っていた。今後の皆様のご活躍をお祈りいたします。来年の発掘の調査報告を楽しみにしています。(40代・女性・一般企業団体)

発掘大変だと思いますが、頑張ってください。(10代・女性・考古学非専攻生)

多くの遺跡で、このHPと同じような公開をしていただきたいと思います。このようなHPをたちあげるのは費用もかかるだろうけれど、応援しています。(40代・男性・一般企業団体)

このホームページは分かりやすくてよかったです。(10代・女性・小学生)

考古学の調査面で発掘のプロセスを見ることが出来、今後を期待します。(60代・男性・一般企業団体)

現在どのような状況なのか判りませんが 発掘作業中のトレンチなどそのまま遺すわけに行かないのでしょうか。(5 0 代・男性・一般企業団体)

参考になりました。(1 0 代・女性・中学生)